

様態を表す副詞の用法について

ここ最近の2号では副詞を扱ってきましたが(16号「場所の副詞」、17号「時の副詞」)、そもそもスペイン語の副詞とは何でしょうか。副詞は“adverbio”と言いますが、ラテン語 ad-verbum、つまり「動詞にくっつけて」という意味に由来する文法用語です。この名の通り、副詞は動詞を修飾することが多いのは確かです(hablar bien)。しかし、形容詞、他の副詞に係ることもごく普通です(bastante salado, demasiado temprano)。また、実際にはもっと用法は多様で、名詞や文全体を修飾することもできます(el entonces presidente norteamericano Clinton 当時のアメリカ大統領クリントン)。ラテン語 verbum は「言葉」という意味でもあったので、結局はいろんな「言葉にくっつく語」ということですね(ほとんど説明になっていませんが)。

前置きが長くなりましたが、そろそろ本号のテーマである様態の副詞に入りましょう。基本的な様態の副詞は、bien, mal, regular, mejor, peor などです。「そのように」を意味する asi, tal もそうです。前号でも触れた despacio, deprisa ももちろん様態の副詞です。

-mente の語尾を持つ語も様態の副詞です。言うまでもないでしょうが、形容詞に -mente を付加して副詞化するものです。-o で終わる場合は前もって -a と女性形にします。それではなぜ女性形にするのでしょうか、それは -mente が元々女性名詞だからです。mente は「心、精神」を意味します(派生語 mentalidad, mentir, etc.)。つまり、例えば amablemente なら「親切な心をもって」→「親切に」と副詞を作る語尾化したというわけです。しかし実は現代のスペイン語でも完全に一語になっているとは言えないフシがあります。それは、スペイン語で唯一 -mente の副詞が二箇所の強勢を維持していることです。amáblemente のつもりで二箇所を強く発音するようにしましょう。

-mente を形容詞に付加する以外にも様態の副詞の作り方があります。例えば、“con + 名詞” や “de modo + 形容詞” などです。

例 alegremente = con alegría = de un modo alegre 楽しそうに

一部の形容詞はそのままで副詞として使うことができます。形容詞の副詞用法と呼んでおきましょう。

Todos los días me hacían **trabajar duro** de 7:00 a 11:00. Era una llamada “compañía negra”. 毎日僕は7時から11時までハードに働かされた。いわゆるブラック企業だった。

Los jugadores de ese equipo **jugaron sucio**, así que incluso sus hinchas les pitaron. そのチームの選手たちは汚いプレーをした。だから、そのファンたちさえも野次を浴びせた。

trabajar duro, jugar limpio (sucio), etc. は「動詞 + 副詞」の慣用句的に使われることが多いのです。他に有用な表現が多いのでぜひ覚えておきましょう。

respirar hondo 深く息をする agradecer infinito 限りなく感謝する etc

場合によっては形容詞そのままの形と -mente を付加して副詞化した形の両方が使用できることがあります。

Ella no habla muy **claro** y parece que esconde algún secreto. 彼女はあまりはっきり話さない。何か秘密を隠しているようだ。

claro の代わりに claramente を使っても意味は同じです。

形容詞が副詞として使われている場合、この形容詞が主語に性数一致しているケースがあります。以下の2例を比べてください。

Anoche Luisa **llegó a casa muy pronto**.

昨夜レイサはとても早く帰宅した。

Anoche Luisa **llegó a casa muy cansada**.

昨夜レイサはとても疲れて帰宅した。

前の例では pronto は「早く」という様態を表す副詞で動詞に係っています(pronto は男性単数)。一方、後の例では、cansada という形容詞は副詞として働いていますが、同時に主語にも深く関係しています(主語に一致して cansada と女性形)。これは「叙述補語」(complemento predicativo)と呼ばれるものの一種です。つまり、前者は Luisa ≠ pronto、後者は Luisa = cansada と考えることができます。別の言い方をすれば、Anoche Luisa llegó a casa と Luisa estaba muy cansada を1つの文で言い表したものと考えてもいいでしょう。

ところで solo は使い方によっては以下のような曖昧さが生じることがあります。

Javier trabaja **solo** los sábados.

ハビエルは土曜日**独り**で働く。

Javier trabaja **solo** los sábados.

ハビエルは土曜日**だけ**働く。

前の例では solo は動詞 trabaja と主語 Javier に係る叙述補語です。一方、後の例では solo は los sábados に係る限定の副詞です。この場合 solo の代わりに solamente を使うと誤解の可能性はなくなります。または、sólo とアクセントを付けます(ただし、2010年のアクセント規則の改定で現在では付けなくてよくなりました)。もちろん主語が女性ならば曖昧さはありません。

María trabaja **sola** los sábados.

マリアは土曜日**独り**で働く。

María trabaja **solo** los sábados.

マリアは土曜日**だけ**働く。

最後に様態の副詞句を見てみましょう。多くは「前置詞 + 名詞」です。いくつか例を挙げてみます。

Perdona! Te he pisado el pie **sin querer**.

ゴメン! 気付かないで足踏んじっちゃった。

Dada la difícil situación en el mercado laboral acepté esa oferta de trabajo **de buena gana**. 労働市場は困難な状況なので私はその仕事のオファーを喜んで受け入れた。

No sé cuándo se marchó Andrés de la fiesta de anoche, pues se despidió **a la francesa**. 昨夜のパーティーでアンドレスがいつ帰ったか知らない。フランス式に抜け出したので。

挨拶せずに別れることをスペイン語では「フランス式」と言います。もちろんフランス人がみんなそうするとは限りません。あくまで言葉の上でのことなので(フランス語では「イギリス式に」と言うそうです)。それにしてもスペイン語って文法は奥深く、表現は豊かですね。

¡Hasta la vista!



仲井邦佳 なかいくによし / Kunijoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語—文法と演習—』(共著、同友社)などがある